ジェンダー学　　杉浦 浩美

※実務経験のある教員による授業科目

授業概要

日本はジェンダーギャップ指数が 149 か国中 121 位であり、ジェンダーギャップが大きい国（男女平等が進んでいない国）となっている。特に経済と政治の分野で男女のギャップが大きく、その差を埋めることは政策的な課題ともなっている。なぜ女性が経済や政治の場で活躍できないのか。男性も女性もセクシュアル・マイノリティも、平等にのびやかに活躍できる社会とはどのような社会なのか、さまざまな観点から考えていく。

なお担当教員は出版社(株式会社徳間書店)に編集者として 16 年間勤務した経験をもち、ジェンダーにかかわる書籍等も数多く手がけてきた。本講義においても、メディアとジェンダー、企業社会とジェンダー、労働とケア役割、キャリアパターンとライフコース等のテーマについて、自らの実務経験と社会経験を生かした形で講じていく。また社会的な活動をしているゲスト・スピーカーを招いての講義も予定している。

授業計画

第１回	「ジェンダー」って何？～ジェンダー概念について学ぶ
第２回	「女性学」と「男性学」の観点から
第３回	性と性差の多様性
第４回	ＬＧＢＴＩ／ＳＯＧＩ
第５回	教育とジェンダー①
第６回	教育とジェンダー②
第７回	メディアとジェンダー①
第８回	メディアとジェンダー②
第９回	中間のまとめと課題
第10回	企業社会とジェンダー
第11回	労働とケア役割
第12回	キャリアパターンとライフコース
第13回	職場とハラスメント
第14回	デートＤＶについて考える
第15回	社会政策とジェンダー
第16回	定期試験

到達目標

目には見えにくい「性差の枠組み」を見抜く力（＝ジェンダーの視点）を獲得することが、まずは目標となる。そのうえで、なぜ、そのような「枠組み」が社会に存在しているのか、それが人々の生き方にどのような影響を与えているのか、自分で考察できるような力を養うことが到達目標である。

履修上の注意

ノートは積極的にとることを求める。また授業時に課題を与え、それにこたえてもらう、ミニ・レポートの提出を求めることがある。

遅刻は交通機関等、特別な事情がない限り認めない。

予習復習

「ジェンダー学」は単に知識として学ぶものではなく、つねに、現実の社会事象と関連づけながら、自らが「問い」を発し、それについて考えていく態度が必要となる。よって、常日頃から、新聞を読む、報道番組を見るなどの態度が求められる。そうした予習・復習をあたりまえに続けるという心構えで授業に参加してもらいたい。

評価方法

定期試験試験（80%）と、授業時に提出を求めるミニ・レポート（20%）で判断する。

テキスト

加藤秀一『はじめてのジェンダー論』（有斐閣，本体 1800 円，2017 年）